

# 院内だより

2013年10・11月  
No.264

## こころの医療センター 5A病棟の紹介

### 【はじめに】

こころ5A病棟は、こころの医療センター5階にある認知症病棟です。平成21年11月に現在の新病棟へ引越しを行い、旧棟に比べて廊下や病室が広くなり、ゆったりとした明るい病棟になりました。何と言っても冬の寒さは比較にならないほど良くなって暖かくなり、快適に過ごせるようになりました。

### 【病棟紹介】

こころ5A病棟は、治療は勿論ですが、食事や排泄、清潔、睡眠など基本的ケアの充実と、患者さんの安全を第一に考え日々看護、介護を提供しています。特に褥瘡の発生予防、悪化防止に力を入れています。認知症が進み歩行が困難になると、車椅子やベッドに臥床する時間が増えてしまいます。皮膚が脆弱になっているところにオムツを使用して蒸れることで、更に褥瘡の発生リスクが高くなります。そこで、体位ごとに体圧がどの部分に、どの位かかるのかを測定し、体位変換時の注意ポイントに活かしました。「八重の桜」にちなんで、褥瘡対策を「褥瘡予防・仕の掟」(P6参照)にまとめ、日々のケアに活かしています。栄養科の担当者と、食事量、カロリー、食事形態などを相談しながら、栄養状態を改善し、褥瘡の改善に繋がるよう努力しています。必要と判断すれば、毎日の入浴を計画し確実に成果をあげています。

### 【退院支援について】

私たちが、今年度力を入れて取り組んでいることがあります。それは退院支援です。

平成24年10月には、平均在院日数が963日と大変長く、患者さんの入退院も多くはありませんでした。入院予約を受けても空きがないため、殆どの方に待機していただいていたため、32床という少ないベッドを有効に利用していくため、退院支援の強化に取り組みました。まず、患者さんとご

家族の方の「〇〇したい」「〇〇して欲しい」という思いを、入院時や入院後一週間以内に開かれる初回面接に確認し、目標を決めました。患者さんは勿論ですが、面会の際には家族の方とでもできるだけ、コミュニケーションを持つように心がけ、その思いを引き出すようにしました。薬物調整や精神療法の治療を行いながら、退院先やサービスを調整し、不足している情報の確認をして、早期にアプローチするようにしました。患者さんのご家族、医師、看護師、ケースワーカー、OT（作業療法士）、栄養科などの多職種で話し合いを持ち、問題の解決や対策について、またサービス調整などについて何度も話し合いを持ちました。早期介入することで、介護保険の未申請が分かったり、施設申し込みが早くでき、その結果、「家に帰りたい」という患者さんの思いに沿い短期間で自宅退院できるケースが増えました。963日だった平均在院日数が平成25年6月には96日と10分の1となりました。ベッドの回転もよくなり、入院が必要な時には待機することなく、すぐに入院ができるようになりました。

### 【おわりに】

患者さんの状態悪化や問題行動発生時、地域のニーズに答え、すぐに入院対応できるよう、また患者さんやご家族の思いに沿えるよう、チーム一丸となって今後も頑張っていきたいと思えます。

